

緑地を楽しむ本

『わたしたちのたねまき』

—たねをめぐる いのちたちのおはなし—

キャスリン・O・ガルブレイス作 ウェンディ・アンダスン・ハルパリン絵 梨木香歩訳
のら書店



お母さんと子どもが、庭に種をまいています。カボチャ、ニンジン・・・でも、もっと広い庭に、もっといっぱい種がまかれているのを、知っていますか？

例えば大風の種まき、強い風にあらゆる種が吹き上げられ、野原の向こうの方まで飛んでいくことでしょう。ほかに、鳥たちの種まき、動物の種まき、いいえそれだけではありません。太陽や雨、川なども植物たちの種まきをしています。もちろん、私たち人

間も、知らないうちに種を遠くに届けるお手伝いをしているのです。

こうしてわたしたちは、自然という庭に種をまいてきました、みんな一緒に。そしてこれからも、まきつづけることでしょう・・・

それぞれの場面でまき散らされる種の絵が美しく描かれていて、どのページもほっこり暖かいものを感じます。

そして最後に書かれている梨木果歩さんの「遠くへ！ 遠くへ！」で、私自身もここに飛ばされてきた種なのだ、今生きていることそのものが大切なことなのだ気づかされました。種の話は、いのちそのものの話でもあったのです。

(小川)